

# 《11》おわりに

少子高齢化や人口減少など社会状況の変化や、経済状況、法律や制度の変更など様々な影響を受けながら、生活を取り巻く環境は変化している。それらは私たちの生活意識や価値観、行動を変化させ、あるいは逆に意識や価値観の変化が仕組みを変えていくこともある。

私たちの意識や価値観はそれぞれの生活の積み重ねの中で変化していく場合も多くあるが、現在も続くコロナ禍は、突然的で私たちに経験のないものであり、様々な行動や考え方など生活の全般を変容させるに十分なインパクトを与えていている。

コロナ禍では通勤・通学や買い物、人と会うなど、何かをする目的で、そのための場所に移動する、というこれまで多くの場面で日常的に行っていた行動が制限された。それにより、私たちは、移動しないでいるか、移動先を変えたりするか、する方法、内容を変えたりすること自体をやめるかを改めて考え、判断し、選択して行動することとなつた。

そうして、現在も経済活動だけでなく、精神的なストレスや負担、知識や体験を得る機会の損失など、様々な方面、レベルで影響が生じている。

しかし、以前と同様の状態に戻るとは考えにくい。実際、ネットショッピングの機会が増えた人は約4割、テレワークも経験者の4割が働くうちで重視するようになつたと回答するなど、自らの行動を考え直す機会を経て、今後も、より効率性や快適性を感じられるような行動を選択するよう変化していくであろう。

コロナ禍の生活において、意外なものが売れたり注目を集めたりして、世の中のヒト、モノ、コトが、様々な形で繋がっていることを改めて考えさせられた。例えば、ネットショッピングは、店に行き、商品をかごに入れ、レジで支払いをして、袋に入れ、家に持ち帰るという行動を自らがしないで済む訳だが、その裏では別の何か一人やデータなど一が代わりにそれを行って、その人やデータに関連した別の何かが必要となつて：と場所や時間、量などの関係を変化させながら様々に繋がっていく。コロナ禍で経験した自らの行動を改めて選択することを通じて、これまで日々行つてきたことが他のモノや方法に置き換える可能性がある。

また、一部の商店街が地域経済の一翼を担いつつ、その場所・地域と繋がる役割を確立し、また、観光分野で人出の回復への期待だけでなく、人出が戻った時に起こりうる課題への対応を含め、その「場所」と係わることに更なる価値を見い出す取組を進めていくよう、行動の変化と共に変化していく意識や価値感を捉えて対応していく視点が重要となる。

一度変わった行動がどのように定着するのか、意識はどういうようにそれらに反応していくのか。行政においては、社会の急激な、あるいは緩やかな変化とともに、市民の意識や価値観等の変化を捉え、これから必要となるものは何か、適切な仕組みは何かについて考え続けなければならぬと思う。

環境への関心がより高まつていくことも考えられる。また、コロナ禍で注目されたテクノロジーの活用は、通勤や働き方に留まらず、居住地選択や家族、地域との係わり方に影響していきだろう。行動ほど激ではなくとも、コロナ禍の経験が、今後どのように意識や価値観に反映していくのかを注視する必要がある。

のか、そもそも必要なのかを考える機会となつた。さらに、置き換えにとどまらず、効率化ややり方の変化によって時間やエネルギーに新たな「場所」が生まれるこれまで、今働いている人が移動せずに仕事ができるだけではなく、今まで就労が困難な状況にあつた人にとって働きやすい環境となつたり、新たな活動の場となる可能性もある。